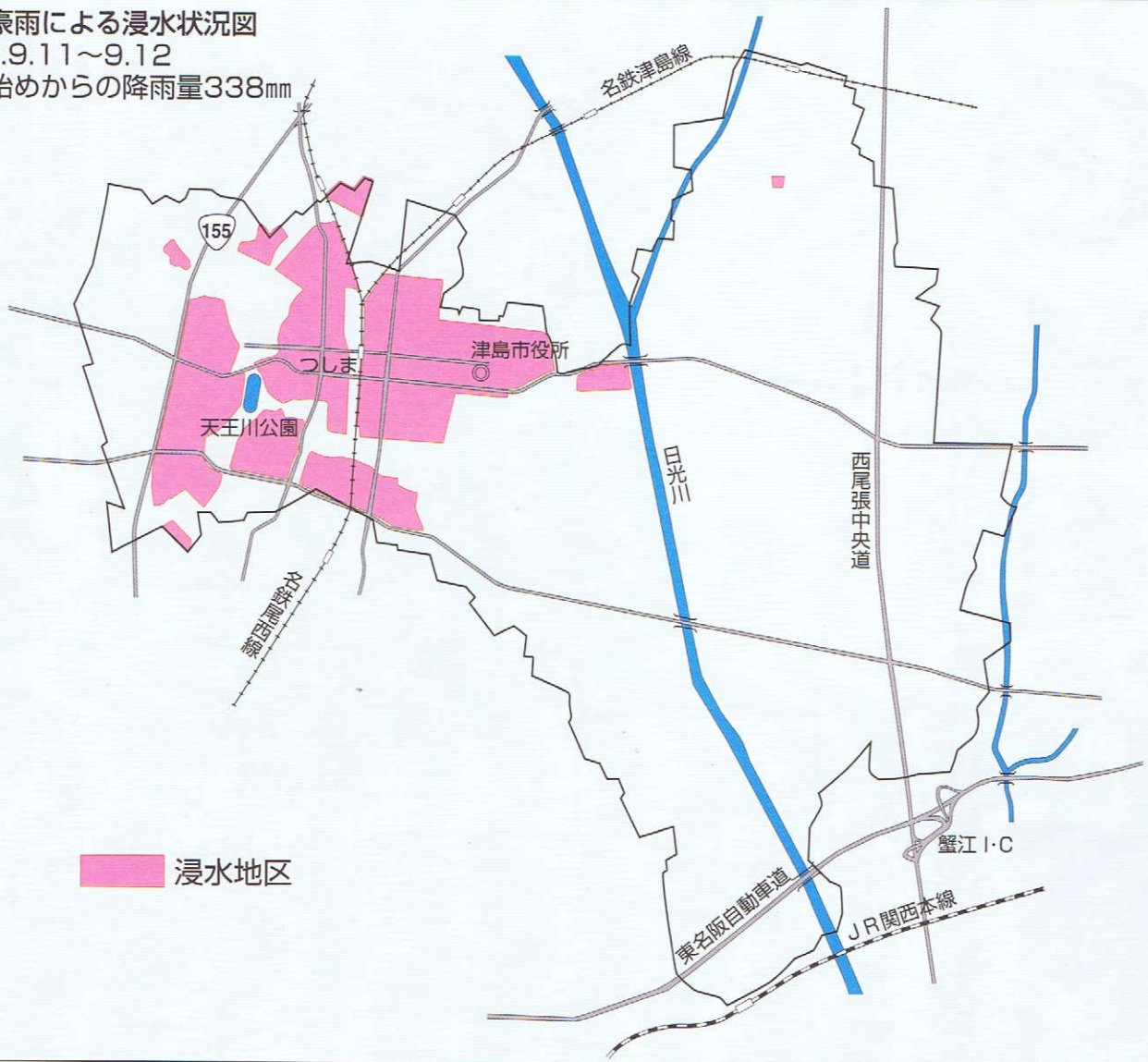


東海豪雨による浸水状況図

H12.9.11~9.12

降り始めからの降雨量338mm



平成12年9月の東海豪雨の際に新川が決壊し、その流域に大きな被害が出ました。このことを教訓に、津島市を始めとする日光川流域の自治体では、豪雨の際に日光川に排水するルール（排水調整）の運用を見直しました。

排水調整は、豪雨の際に各排水ポンプで排水を続けると、堤防の決壊や越水を招き、流域全体が洪水により甚大な被害を受けるおそれがある時に、各排水ポンプの運転を調整し、被害を最小限におさえるものです。

簡易水防工法の例

次に記載する簡易水防工法は、あくまでも小規模な水害で、水深の浅い初期の段階で行うものです。危険を感じる前に早めに避難して下さい。

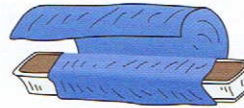
1. 簡易水のうと段ボール箱による工法

家庭で使用している40リットル程度の容量のゴミ袋を二重にして、中に半分程度の水を入れてしめ、すき間なく並べる。段ボールに入れて連結すれば強度が増し、中に詰める水のうも積み重ねて使用することもできます。



2. プランターとレジャーシートによる工法

土を入れたプランターを連結し、レジャーシートで巻き込み使用します。



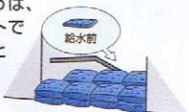
3. ポリタンクとレジャーシートによる工法

10リットル又は20リットルのポリタンクに水を入れ、レジャーシートで巻き込み、連結して使用します。



4. 吸水性ゲル水のうによる工法

土のうの代替として使用できる市販の吸水性ゲル水のうで浸水を防ぐ方法です。吸水性ゲル水のうは、軽量、コンパクトですが、水を吸うと膨張します。



5. 臨時的止水板による工法

出入口に長めの板などを使用して浸水を防ぎます。



6. その他の工法

はしご、鉄板、身近にあるボード、テーブル、畳等を用いて水の流入を防ぎます。